

論文内容の要旨

論文課題名:慢性疾患患児の父親の Sense of Coherence

(Sense of Coherence among fathers of children with chronic illnesses)

指導教員 竹内朋子 教授

東京医療保健大学大学院看護学研究科

平成 30 年 4 月入学 博士課程看護学専攻

原口 昌宏

【目的】

第一に、慢性疾患患児の父親の精神健康にストレスがどのように関連するか、第二に、慢性疾患患児の父親のストレスが精神健康に及ぼす影響に対して、Sense of Coherence (以下 SOC) がどのように関連するか、第三に、慢性疾患患児の父親の SOC にソーシャルサポートがどのように関連するかを明らかにすることを目的とした。

【方法】

横断研究デザインに基づき、クローズ型インターネット法及び郵送法による無記名自記式質問紙調査を行い、慢性疾患患児の父親 51 名、健常児の父親 86 名を分析対象とした。

【結果】

慢性疾患児がいること、子どもの医療処置数が 3 つ以上であることは、父親の精神健康の悪さと有意に関連していた。また、低ストレス下では SOC の高低によって精神健康に有意差はなかったが、高ストレス下では SOC 低群は SOC 高群よりも有意に精神健康が不良であった。さらに、慢性疾患患児の父親の SOC は、ソーシャルサポート全体、ソーシャルサポートの下位因子である道具的サポート、情緒的サポートとそれぞれ有意な正の関連性があった。

【考察】

慢性疾患患児の父親であることは精神的なストレスであることが明らかになった一方で、SOC にはストレスが精神健康に及ぼす影響に対して緩衝効果があることも明らかになった。これらのことから、日々の生活のなかでストレスに曝される慢性疾患患児の父親にとって、精神健康を良好に維持するうえで SOC が重要であることが明らかになり、positive psychology approach の 1 つである SOC 理論に基づく支援の方策が有用である可能性が示唆された。

さらに、慢性疾患患児の父親の SOC には、道具的サポートだけではなく、情緒的サポートを含めたソーシャルサポートの充実が有意に関連していることが明らかになった。慢性疾患患児の父親のストレスや心理的特性を理解した上で、問題解決のための情報提供支援だけではなく、心情を表出したり、他者とのつながりを実感できたりするような支援の重要性が示唆された。

キーワード:

父親、慢性疾患患児、首尾一貫感覚(Sense of Coherence: SOC)、ポジティブサイコロジーアプローチ

Keywords:

fathers, children with chronic illness, Sense of Coherence, positive psychology approach